高知大学
Kochi University

平成２２年１２月１５日

国立大学院で初めての助産師教育開始（実践助産学課程新設）

概　要

高知大学大学院総合人間自然科学研究科看護学専攻においては、平成23年４月から、実践助産学課程を新設し、大学院で助産師教育を開始します。本実践助産学課程は、国立大学院で初めての助産師教育課程であり、周産期医療を含むこれからの「女性、母子及び家族」の看護のスペシャリスト教育課程として全国の看護系大学から期待・注目されています。

■背 景

保健医療を取り巻く環境は、少子高齢化の一層の進行、医療技術の進歩、経済格差や価値観の多様化など大きく変化しています。特に医療技術の進歩は、新生児死亡率や周産期死亡率の低下につながる一方で、出産年齢の高年齢化や不妊治療の普及などリスクの高い妊婦や低出生体重児の出生を増加させる要因ともなっています。

このような医療・社会環境変化から起こる「女性、母子及び家族」の健康問題は、医学的問題のみならず生活全般へ大きく影響します。社会は、女性の子育ての不安や思春期問題行動への早期支援、子どもの健康な成長・発達促進に向けた家族への健康支援、安全で快適な出産・育児環境の提供など高度な実践能力を有する助産師を必要としています。このように幅広い助産実践ができ、地域や病院などで主導権を発揮し、助産師独自の活動ができる高い知識と技術能力を備えた助産師を養成するためには大学院における「助産学教育」が重要となります。

高知県においても少子化が進み、子育てへの支援が求められる中、医師、関連職種の人々と協働し、安心して出産・子育てのできる環境を整えていくために、助産師の役割はますます重要視されています。現在高知県の助産師のほとんどが高知市に集中していることや若い世代の助産師の減少などから今後の高知県の医療を担うことが期待される若い世代の助産師の養成は高知県の重要課題ともなっています。

■内 容

出願資格は、看護師・助産師の国家資格を有し３年以上の実務経験のある者または看護師国家試験受験資格を有する者としています。現在の大学院看護学専攻募集人員１２名の枠のうち母子看護学分野・実践助産学課程選択者は５名程度とします。

実践助産学課程は、一般選抜のみとします。選抜方法は、出願書類、学科試験「専門科目（実践助産学領域）・英語」・個人面接試験を総合して選考します。なお、本学大学院総合人間自然科学研究科看護学専攻において、個別の入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者については、母子看護学分野・実践助産学課程に出願することができます。

看護系大学卒業者や臨床経験を有する看護師・助産師など幅広く受け入れ、講義科目と演習・実習活動、及び課題研究を組み合わせたカリキュラムを提供します。学生個々の能力・経験にあわせて母子看護・助産分野の知識・技術などを、柔軟且つ効果的に修得できるプログラムを提供します。助産学を初めて学ぶ学生には「助産学導入科目」を設け、修士課程修了と合わせて助産師国家試験受験資格が獲得できるようになります。更に、学生の多様なキャリア形成と地域の高度専門的な助産師需要に積極的に応える科目を開講します。

■効 果

大学院で高度専門職業人として助産学教育を２年間行うことで、あらゆるライフステージにおける「女性、母子及び家族」の健康を総合的に支援できる実践力とリーダシップ・マネージメント・コーディネーターなどの能力をもつ「女性、母子及び家族」支援のスペシャリストが養成できます。助産師や医師を含む保健、医療、福祉など多専門職の協働において、高知県の周産期医療レベルの向上と妊産婦死亡率・周産期死亡率の更なる低下に寄与することを目指します。また、「女性、母子及び家族」に寄り添い個々に応じた暖かい支援のできる豊かな人間性と感性を備えた助産師の確保が行えます。

大学院看護学専攻入試実施情報ホームページ
http://www.kochi-ms.ac.jp/~of_admss/ac_execution..html